

ワーキンググループ報告

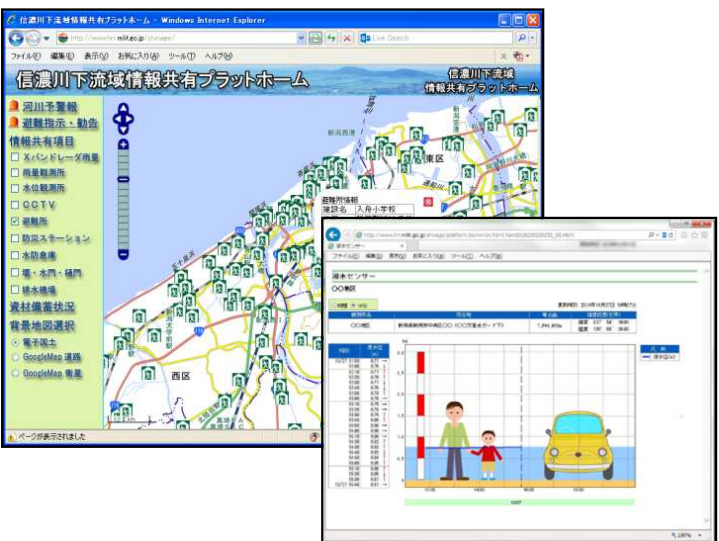
水害に強い信濃川下流域づくり推進協議会3つのWGについて

水災害情報共有WG

- 関係機関が取得する水災害関連の情報を提供するHPが多数存在。
- 施設の操作状況など、内部情報についても、関連機関で共有することで、連携した取り組みが出来る可能性。



関係機関の持つ災害情報が一元提供されるサイト(信濃川下流災害情報共有プラットフォーム)を開発・改良

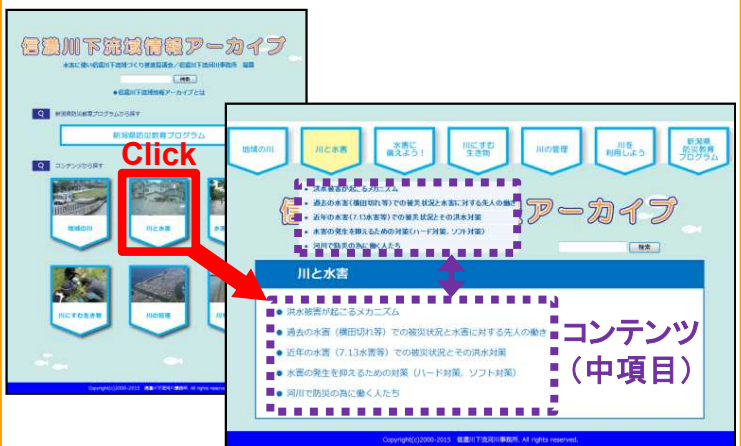


水防災教育の推進WG

- 総合学習などで、防災教育の単位はあるが、災害選択制になっており、水災害についてはわかりにくく、敬遠されがち。
- 授業や自治会の防災研修等で用いることができる教材の不足
- 流域内にいくつかある治水関連の展示施設の一層の利活用。



関係機関の持つ河川・災害に関する教材(資料・動画・資料館)を探し、一元的に提供するサイト(信濃川・防災アーカイブ)の開発

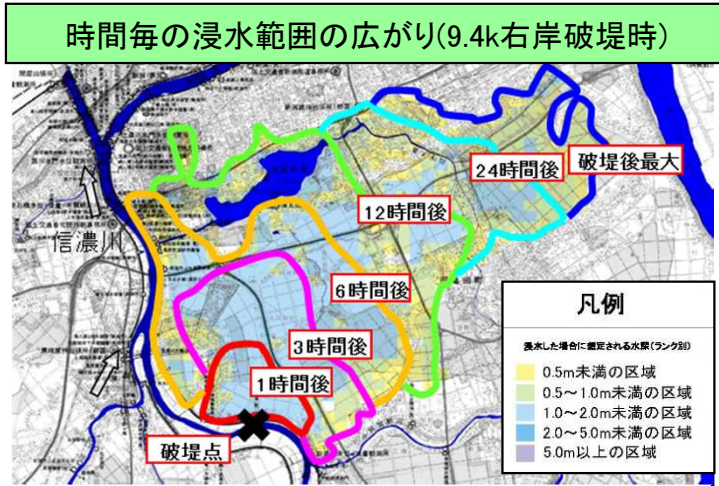


大規模浸水対策に関する検討WG

- 堤防が決壊した場合のリスクと対策について十分検討が進んでいない。
 - ・信濃川下流域は低平地で、ゼロメートル地帯が存在。河川が氾濫すると氾濫水が低地に広がり、浸水が長期に及ぶと推定
 - ・人命の安全確保、浸水被害の軽減を図るためには、氾濫水の排水対策も危機管理対応として重要
- ・安全に生活できる一時避難場所への避難
- ・超過洪水を視野に、排水ポンプの耐水化や道路の盤上げなど、避難のための取り組みの必要性



堤防決壊時のリスクと対策の検討・共有



水災害情報共有WGについて

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度～
行動計画	・情報共有プラットフォーム (STEP1)を開設(H26.5～)	・「信濃川下流域情報共有プラットフォーム」のSTEP1をベースに、 情報表示機能及び画面構成等を改良・追加したSTEP2を短期計画 (概ね1～2年)で構築する。 ・双方向情報共有システムの検討 ・掲載情報の拡充	※朱書:H26 実施	・運用していく中で、情報の更新・拡充を実施

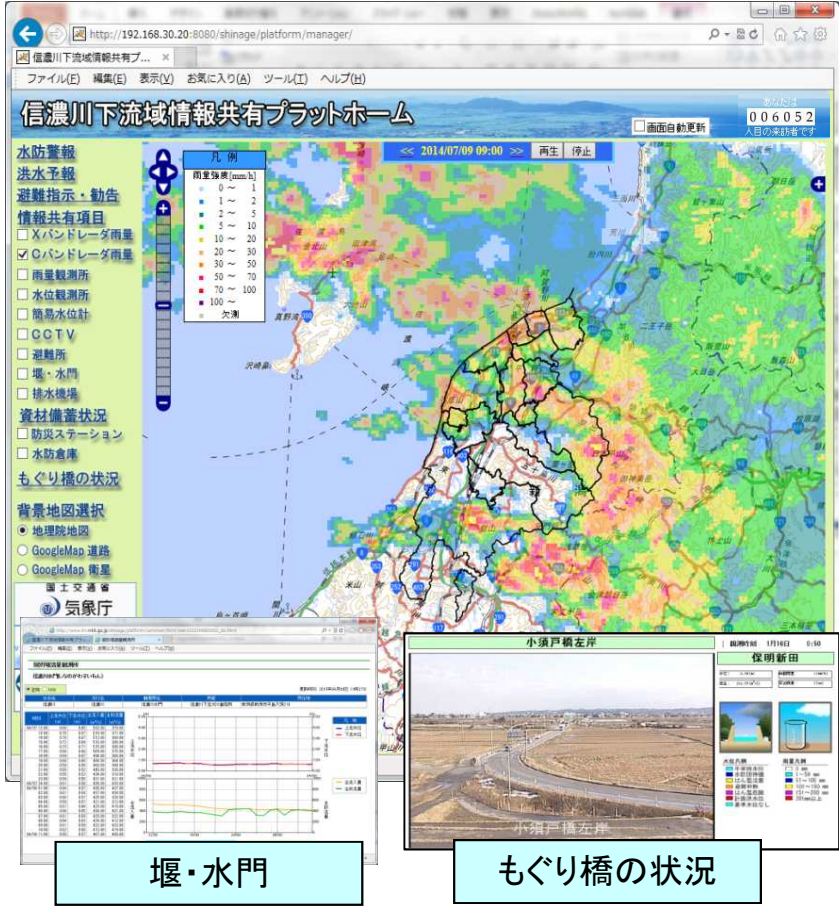
■平成26年度の検討内容

利便性の向上を目指して、情報量を拡充によるプラットフォームの改良を実施した。

情報共有追加項目

拡充対象情報項目
Cバンドレーダ雨量
堰・水門 ※
排水機場 ※
簡易水位計※
もぐり橋の状況
気象警報・注意報
距離標 ※
行政界

※は行政関係者向けのみ公開



地図コンテンツに情報項目の追加
・Cバンドレーダ雨量
・距離標、行政界

今後の検討事項と改良予定

- 1. 双方向機能の必要性及び実現性について
 - ① 双方向システムの必要性や同システムで取り扱う情報の種類及び運用の実現性等について検討
 - ② 例えば避難所や被災現場において、スマートフォン等から入力された被害状況や避難所の避難者数及び必要とする物資等の情報を共有化
- 2. プラットホーム掲載情報の拡充について
 - ① 緊急度の高い情報(大雨特別警報や避難指示等)を入手後、速やかにトップ画面へ自動表示する
 - ② 今後、内水浸水センサーの整備に合わせて、内水浸水情報の表示を検討
 - ③ 簡易水位計の増設に合わせて、簡易水位計の表示数を拡充
 - ④ 排水機場及び排水樋門等の水位情報などを拡充

水災害教育の推進WGについて

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度～
行動計画	【治水・農業施設連携】 ①モデルコースの作成 ②現河道施設スタンプラリー（カードの作成） ③遺構等の治水歴史巡りへの反映	【治水・農業施設連携】 ①関係機関より施設情報の収集整理 ②モデルコース案、リーフレット案の作成 ③電子スタンプラリーアプリの開発・試行 【水防災教育】 ①教育機関へのヒアリング→必要な教材等の情報収集 ②関係機関より資料の収集 ③HPコンテンツを構築・公開		【水防災教育】 ・教育委員会・小中学校への周知 ・運用していく中で、情報の更新・拡充を実施

■平成26年度の検討内容

流域の治水や水防について学ぶ機会を増やすため、以下の取り組みを実施

○流域情報アーカイブ(仮称)の構築準備

信濃川下流域の治水・農業関連情報の整理

- ・コンテンツ毎に情報を格納し、さまざまな検索手法に対応

○治水・農業施設等の連携

流域内に点在するさまざまな治水・農業関連施設の分布状況を整理

- ・施設を知ってもらうことで、流域の特性等を学ぶ機会を増やし、理解を深めてもらう

○電子スタンプラリーアプリ試行

防災力UP★ スタンプラリー

あなたの「防災力」をUP!
チェックポイントは9ヶ所です!

【使い方】

- ①チェックポイントに到着したら、下の該当する枠（カメラアイコン）をタップ！
- ②カメラが起動して記念写真が撮影できます！
- ③撮影が成功すると、該当する枠にスタンプ付きの写真のサムネイル（ミニ写真）が表示されます！

三糸市中央公民館

緊急避難場所

三糸市中央公民館

飯沼町水汲小路

歴史民俗産業資料館

三糸市中央公民館

嵐川橋

三糸市中央公民館

三糸市中央公民館

参加者から寄せられた感想

- ・家族で参加し、町の魅力を発見する機会となった。
- ・いつも何も気にせず通り過ぎる場所ばかりだったが、カメラにおさめてみると、いつもと違った風景に見え、とても愛着を感じた。
- ・防災に関することをもっと知りたいと思った。
- ・このような企画は子供たちとも楽しめてよかった。

新潟県防災教育プログラムから探す

新潟県防災教育プログラム

コンテンツから探す

情報表示例

地域の川

川と水害

川にすむ生き物

川の管理

新潟市は、水害よりも高さの低い土地

新潟平野に、位置する新潟市は、日本海や信濃川・阿賀野川の水害よりも高さの低い土地が広がっています。

越後平野の地形

流域の地盤高

凡例

- 0m~1m
- 1m~2m
- 2m~3m
- 3m~4m
- 4m~5m
- 5m以上
- データなし

資料の出典]
 信濃川リッスガイド作成 出版経緯 信濃川下流を学ぶ、平成26年9月26日、P. 5、6
 [資料の提供先]
 機関：国土交通省 信濃川下流河川事務所 浸食防止課
 連絡先：025-266-7319

推奨ルート案

①パティオにいがた

- ・防災公園としての機能
- ・日常の情報発信

②見附市大風伝承館

- ・刈谷田川の伝統行事、大風製作技術の紹介

③田んぼダム

- ・水田を使った治水対策

旧田家住宅
大教録本館
赤井防災ステーション
しろね大風と歴史の館
雄飛町黒田新館
角兵衛地蔵尊
はさぎ立木 (門出地区)
まわり土手 (メガネ土手)
五反田の移民隊
農業資料館
水防学習館 (三条防災ステーション)
三島市歴史民俗産業資料館
松尾寺十郎の像

大規模浸水対策に関する検討WGについて

	H25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度～
行動計画	—	【L1:計画規模（1/150）での検討】 ・下流域の外水氾濫の情報共有 ・既存の排水機場等のリスク評価 ・外水氾濫の被害軽減に向けた方策のリストアップ ・氾濫抑制対策の検討・耐水化が有効な排水施設のリストアップ ・適時的確な避難による被害軽減策検討 ・ライフライン・インフラ施設被害に伴う影響検討 ※朱書: H26 実施		【L2浸水想定区域図の情報共有】 ・被害軽減に向けた方策のリストアップ ・新たな課題の抽出

■平成26年度の検討内容

外水氾濫（L1:計画規模）などの浸水を想定し、排水機場の停止による湛水長期化や停電など、社会的リスクの共有と対策について検討を実施

○大規模浸水・長期湛水事例の整理

○シミュレーションによる被害状況の把握

○排水機場稼働条件の調査

氾濫シミュレーションにより堤防決壊後の被害状況を把握すると共に、排水施設の稼働による効果を検証。

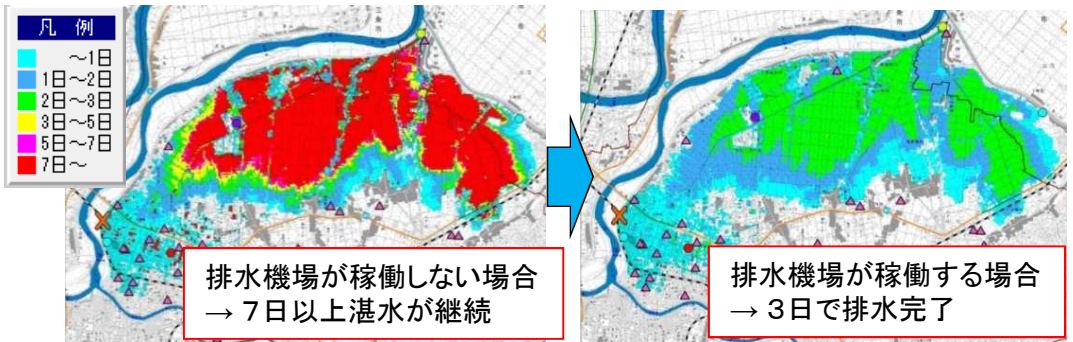
排水機場は、浸水する高さにより停止する恐れがあるため、施設ごとに稼働停止する条件を調査



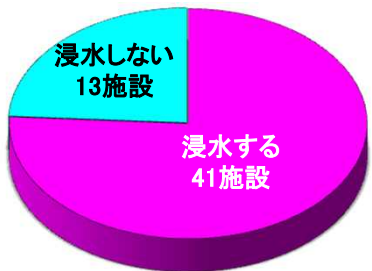
- ・開口部の高さ
 - ・電気系統の機能停止高さ
 - ・受電設備の設置高さ
 - ・非常用発電設備の高さ
- など

【氾濫シミュレーション基本条件】
・1/150規模洪水を想定（浸水想定区域図検討時と同様）
・破堤点は、氾濫ブロック毎に大規模な被害額が予想される地点を設定（直轄区間のみを対象）

【結果のアウトプット】
・最大浸水区域、最大浸水深
・浸水面積、浸水人口、浸水戸数
・浸水継続時間
・3日以上孤立者数、最大孤立者数など



施設の浸水状況(合計54施設)



浸水施設の稼働状況(左図の41施設)



○浸水被害軽減に向けた方策の検討

- ・耐水化が有効な排水施設について施設管理者との情報共有
- ・排水機場の耐水化の事例収集及び情報共有